

株主通信

第121期

2021.4.1 ~ 2021.9.30

証券コード 7105

# Logisnext

*Logistical Equipment & System Solutions Next*

三菱ロジスネクスト株式会社

# 新たな中期経営計画のもと、世界のあらゆる物流シーンにソリューションを提供できる企業として飛躍を目指していきます。

当期(2022年3月期)は三菱ロジスネクスト株式会社として初の3カ年中期経営計画『Logisnext SolutionS 2023』がスタートしました。

今後はポストコロナ時代を見据えつつ新中期経営計画の基本戦略「企業耐力の強化」「成長戦略の推進」「ブランド力向上」に沿った諸施策を着実に展開し、更なる飛躍を目指してまいります。



代表取締役社長  
久保 隆

## 上半期業績総括

**当** 上半期の世界経済は、各国の感染防止対策やワクチン接種の進展により欧米・中国において規制緩和が更に進み、復調傾向は確実に進展しています。一方、日本においては、コロナ禍による落ち込みが欧米に比べ小さかったこともあり、その反動需要は大きなものではなく、復調傾向は緩やかに推移しています。

フォークリフト市場は、海外においては、先行して回復を見せた中国はもとより、昨年9月頃からは欧米を中心として、これに続いてアジアでも力強い伸長を見せており、コロナ禍前の水準を超えるほどにまで回復してきています。また、日本においては、経済と同様に市場の回復は緩やかではありますが、コロナ禍前の水準に回復してきています。しかしながら、世界経済およびフォークリフト市場が復調する中、欧米・中国を中心とした急激な経済回復により需要に供給が追いつかず、資源高・原材料や輸送運賃の高騰・サプライチェーンの混乱を引き起こしており、生産およびコスト面に大きな影響を及ぼしました。

こうした状況下、当上期の連結売上高は2,160億9千1百万円(前年同期比16.5%増加)の増収となりました。利益面については、資材費や輸送運賃の高騰などの影響はあるものの、増収効果により営業利益は15億6千2百万円(前年同期は4億6千2百万円の損失)、経常利益は14億3千

3百万円(前年同期は7億8百万円の損失)、親会社株主に帰属する四半期純利益は2千6百万円(前年同期は19億6千3百万円の損失)といずれも改善しました。なおのれん償却等の影響を除いた営業利益は63億6百万円(前年同期比45.2%増加)、営業利益率は2.9%となりました。

## 下期の見通し

**市** 況回復の一方で、コロナ禍を背景とした部品の不足やサプライチェーンの混乱が世界各地で起きており、当社も部品供給の確保・整流化を進めて受注の増加に対応した生産・出荷を実現し、納期を順守することが喫緊の課題となっています。現在、この課題の解消に注力しているところではありますが、新型コロナウイルス感染症の変異型による感染再拡大や雇用の伸び悩み、米国を初めとした急激なインフレ進行など世界経済の先行き不透明感も相まって、依然として予断を許さない状況が続くものと思われます。通期の売上高については今年5月の発表数値から400億円増の4,700億円に上方修正しますが、今後変動費の悪化も見込まれることから、すべての利益項目に関しては5月発表時の予想数値(営業利益50億円、経常利益40億円、当期純利益10億円)をひとまず据え置き、状況が見えてきた時点で改めてお知らせしたいと思います。

## 新中期経営計画について

**今** 年度(2022年3月期)からは新たな3カ年中期経営計画『Logisnext SolutionS 2023』がスタートしています。「三菱ロジスネクスト株式会社」となると初めての中期経営計画であり、当社グループの新たな飛躍に向けて極めて重要な3年間になると位置づけています。「SolutionS」の最後を大文字の「S」としたのは、フォークリフトという機器単体の販売だけでなく、お客様の物流課題への「解(Solution)」を提供することに加え、お客様や社会への貢献を通して、当社が新たな企業文化を醸成するという社内に向けてのSolutionへの想いも込めています。

この『Logisnext SolutionS 2023』の基本戦略は「企業耐力の強化」「成長戦略の推進」「ブランド力向上」の3つです。第1の「企業耐力の強化」では、不確実な時代を乗り切っていくため、既存事業のさらなる強化に取り組みます。収益力強化に向け業務統合を強力に進めつつ、固定費・変動費の踏み込んだ見直しによってコスト構造の改善を着実に進める考えです。第2の「成長戦略の推進」では、ポストコロナ時代の成長機会を

捉えるべく脱炭素化社会や労働力不足などに対応するお客様の「ESG経営」の観点からも、電気車化の加速、及び自動化自律化と、デジタルトランスフォーメーション活用による物流システムの高度化に対応するソリューション事業を拡大、充実させます。同時に販売ネットワークの再編・強化も進め、特に国内・米州では直系販売網の強化とともに新たな事業領域への拡張を図っていきます。併せて市場ニーズを捉えた商品開発にも引き続き注力していきます。第3の「ブランド力向上」では、各市場でのブランド戦略の見直しと併せて企業ブランド「Logisnext」の認知度アップと市場でのブランド力向上を図り、さらにこれをグループの一体感や従業員のモチベーション向上、企業文化の醸成につなげていく考えです。

上記3つの基本戦略の実行により、最終2023年度には「連結売上高5,000億円・のれん等償却前営業利益300億円(営業利益率6%)」を目指します。併せて在庫の削減や総資産の圧縮などによる財務体質の改善にも努め、2023年度には自己資本比率も20%以上に高める計画です。

### 2023年度の数値計画

連結売上高	5,000億円
のれん等償却前 営業利益	300億円
営業利益率	6%
自己資本率	20%以上

### 3つの基本戦略

## 1 企業耐力の強化

### 既存事業の強化

各地域での売上と利益の拡大を図るとともに、固定費削減や組織再編により、大きな経済変動にも耐えうる力を強化。

### 固定費・変動費の改善

調達コストや輸送費の削減はもとより、部品の内製化や労務費の見直しにも踏み込み、徹底的なコスト低減を推進。

## 2 成長戦略の推進

### ソリューション事業の推進による事業領域拡大

有人フォークリフトはもちろん、AGV/AGFを中心とした自動化、無人化ニーズに対してハードとソフトの両面でお客様の物流課題への提案内容を拡充。

### 販売ネットワーク再編・強化による利益創出

日本、米州、欧州、APAC、中国それぞれの地域ごとの戦略により、統合のメリットを最大化。

### 市場ニーズを捉えた商品開発によるシェアアップ

三菱重工業(株)との協業により、スピード感のある商品開発と技術開発を実現。

## 3 ブランド力向上

### 「Logisnext」ブランドの活用と認知度向上

カテゴリブランド※の強みを生かし、物流ソリューションの総合メーカーとして「Logisnext」の認知度アップを図る。

### 「Logisnext」を核に新しい企業文化の醸成

グループ人材の育成を中心に、全社の一体感と組織力を強化。持続的成長の原動力として、企業文化の醸成に繋げる。SDGsの達成に貢献し、持続的な社会の実現と企業価値の向上を目指す。

※三菱フォークリフト、ニチユバッテリーフォークリフト、ニチユ物流システム、TCMフォークリフト、TCM特殊搬送車両

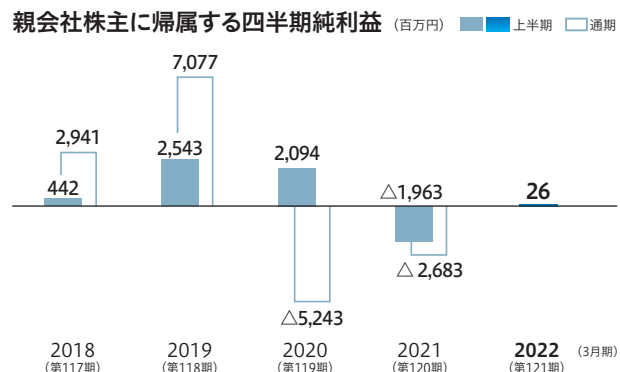
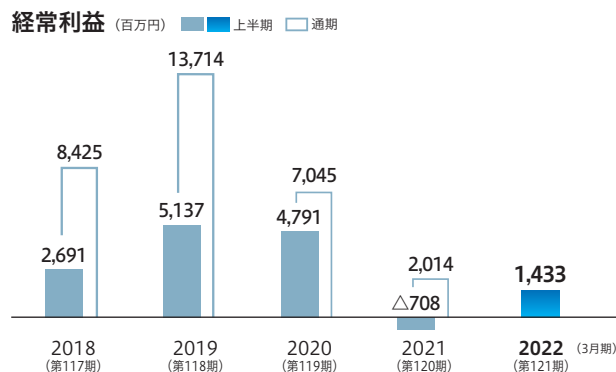
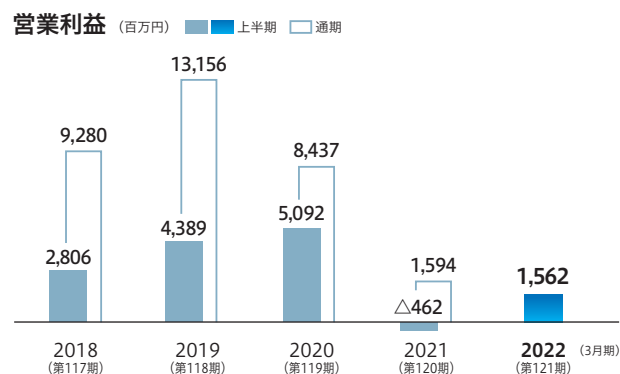
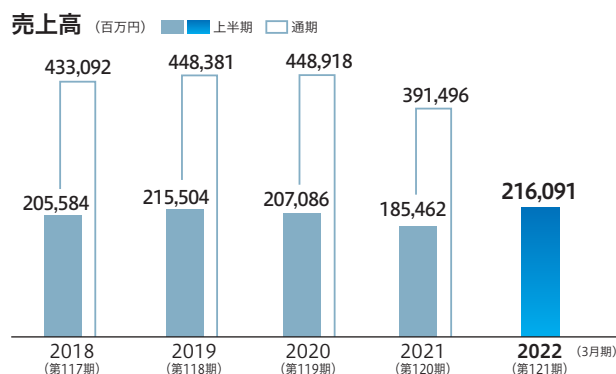
## 株主の皆様へのメッセージ

**当** 社はその期の収益状況に対応し、株主の皆様への配当の充実と企業基盤確立のための内部留保とのバランスに配慮した利益配分を行うことを基本方針としています。当期の期末配当金については、1株当たり8円で実施させていただく予定です。

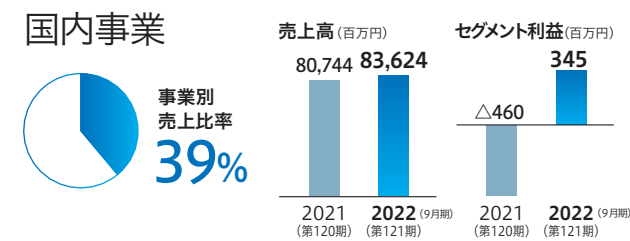
新型コロナウイルス感染症の変異型による感染の再拡大や米国を初めとした急激なインフレ進行など、世界経済は依然として予断を許さない状況が続いていますが、今回の

コロナ禍を通し人々の暮らしを支える「物流」はグローバルでかつてないほど重要視されています。その中で総合物流機器メーカーである当社もますます重責を担ってまいります。

私たちはこれからも企業理念「世界のあらゆる物流シーンで、お客様にソリューションを提供し続け、未来創りに貢献する」を実践すべく、グループ全従業員が心を一つにして業務に取り組んでまいります。株主の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご理解、ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

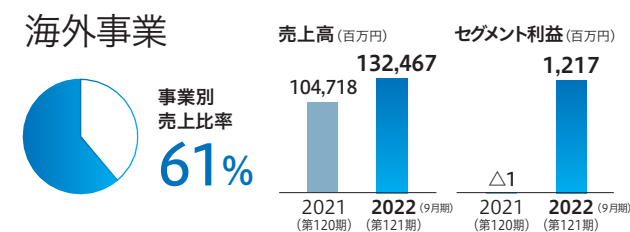


## 事業別業績概況



国内事業は、需要の復調傾向もあり、売上高は836億2千4百万円(前年同期比3.6%増加)となりました。セグメント利益は、売上高の増加が寄与し、3億4千5百万円(前年同期4億6千万円の損失)となりました。

なお、のれん等償却の影響を除くと、セグメント利益は27億3千8百万円(前年同期比29.4%増加)となっております。



海外事業は、欧米を中心とした力強い市場の復調により、売上高は1,324億6千7百万円(前年同期比26.5%増加)となりました。セグメント利益は、原材料や輸送運賃の高騰もあり、12億1千7百万円(前年同期1百万円の損失)となりました。

なお、のれん等償却の影響を除くと、セグメント利益は35億6千7百万円(前年同期比60.3%増加)となっております。

## 新中期経営計画達成に向けた取り組み

新中期経営計画『Logisnext SolutionS 2023』で掲げている基本戦略「成長戦略の推進」の取り組みとして、ハード・ソフトの両面から、物流現場のニーズを捉えた商品開発を推進しています。

### 大型フォークリフト向け AI人検知システム「グッドファインダー」を三菱重工業(株)と共同開発



港湾で活躍する大型フォークリフト

年間約2,000件発生しているフォークリフト事故。中でも港湾や製鉄所で使用される大型フォークリフトの事故は重篤なものになり得るため、安全な作業環境の実現が求められています。

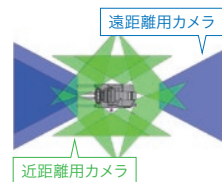
このような中、当社は、高い画像処理・検知技術を持つ三菱重工業(株)と共同で、当社製大型フォークリフト向けにAI人検知システム「グッドファインダー」を開発し、2021年9月に販売を開始しました。今後も三菱重工業(株)と当社それぞれの技術を生かした共同開発を実施し、フォークリフトの作業性と安全性の向上、より安全な作業環境づくりに貢献していきます。

#### 製品の特長 作業現場の安全性向上に貢献

##### ▶ POINT 1

#### 全周囲を高精度で検知

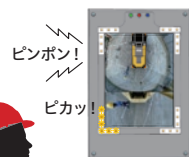
2種類のカメラの併用で死角を極力狭めるとともに、AIアルゴリズムを用い、人を高速・高精度で検知。



##### ▶ POINT 2

#### 危険を確実に伝える

人の接近を検知後、モニターランプと警告音により、迅速かつ分かりやすく運転手に危険を伝達。



### 物流倉庫の効率化ニーズに応える無人フォークリフト「プラットーオートHタイプ」を発売



当社は1971年に世界初の無人フォークリフトを開発し、長年倉庫の現場を支えてきました。コロナ禍におけるネット通販の利用者増加に伴い「非接触化」「自動化」のニーズが高まる物流倉庫では、無人フォークリフトの需要がさらに増加しています。

これらのニーズに応え、従来製品以上に作業効率向上に貢献できる製品「プラットーオートHタイプ」を2021年8月に発売しました。従来の無人フォークリフトにおける、有人フォークリフトに比べて動作速度が遅く、車体大きいという課題をクリアし、より現場で活躍できる製品になりました。障害物センサーを配置するなど、安全性も確保しています。

#### 製品の特長 少ない導入負担で作業効率向上を実現

##### ▶ POINT 1 作業効率3割アップ

有人リリーチ型フォークリフトと同等という業界最速水準の走行・リフト速度で稼働が可能になり、作業効率向上に貢献。

人が操縦するフォークリフトと同等の稼働が可能!



##### ▶ POINT 2 倉庫内レイアウト変更不要

車体サイズが有人リリーチ型フォークリフトと同等のため、倉庫内のレイアウト変更なしで導入可能。

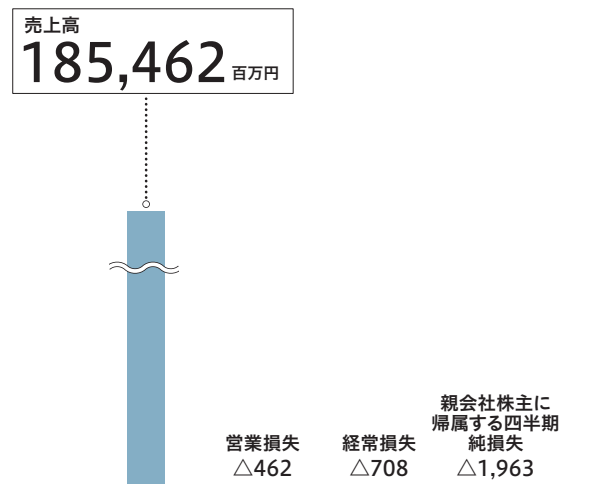
##### ▶ POINT 3 床面工事不要

レーザー誘導方式を採用しているため、磁気棒の埋没工事が不要。

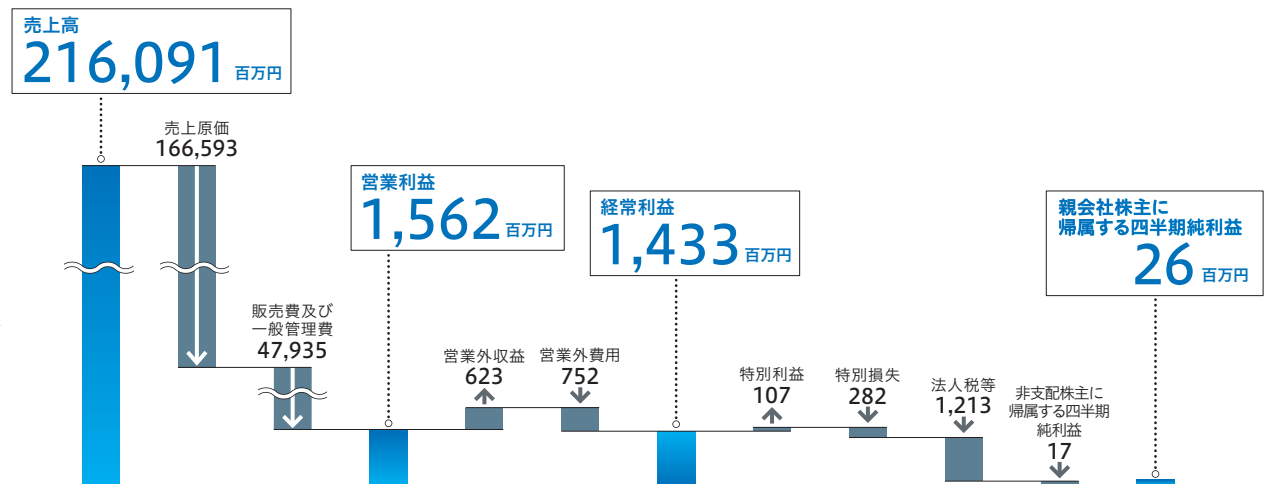
# 主要連結財務指標

## 連結損益計算書 (百万円)

前 第2四半期(累計) (2020年4月1日～2020年9月30日)

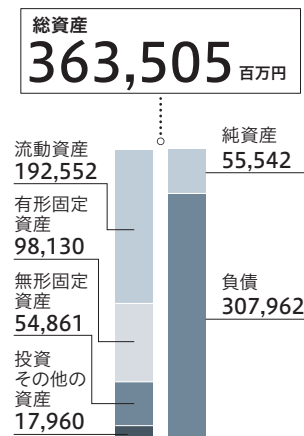


当 第2四半期(累計) (2021年4月1日～2021年9月30日)

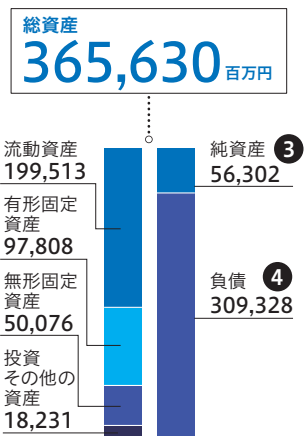


## 連結貸借対照表 (百万円)

前期末 (2021年3月31日)



当 第2四半期末 (2021年9月30日)

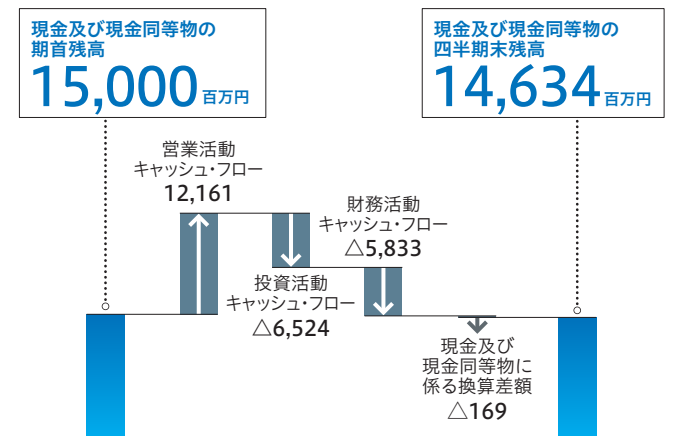


### POINT

- 流動資産**  
棚卸資産の増加等により6,961百万円増加しました。
- 固定資産**  
のれん等償却などにより4,835百万円減少しました。
- 純資産**  
新株予約権及び非支配株主持分を除くと55,713百万円となり、前連結会計年度末より712百万円増加しました。
- 負債**  
借入金の減少はあるものの、仕入債務の増加の影響が大きく、全体としては1,365百万円増加しました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (百万円)

当 第2四半期(累計) (2021年4月1日～2021年9月30日)





株式の状況

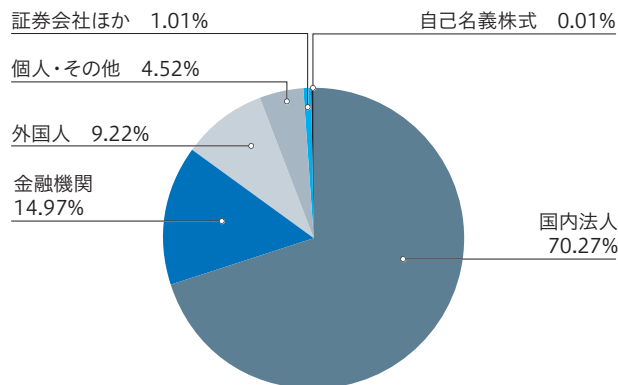
発行可能株式総数	普通株式	392,725,256株
	種類株式	32,274,744株
発行済株式総数	普通株式	106,605,013株
株主数	普通株式	6,857名

大株主(普通株式)

株主名	持株数(千株)	持株比率
三菱重工業株式会社	68,888	64.62%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	4,958	4.65%
株式会社GSユアサ	4,701	4.41%
株式会社日本カストディ銀行	2,837	2.66%
明治安田生命保険相互会社	2,765	2.59%
GOVERNMENT OF NORWAY	2,098	1.97%
株式会社三菱UFJ銀行	1,363	1.28%
株式会社京都銀行	1,301	1.22%
SMBC日興証券株式会社	888	0.83%
JP MORGAN CHASE BANK 385781	830	0.78%

※ 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況(普通株式)



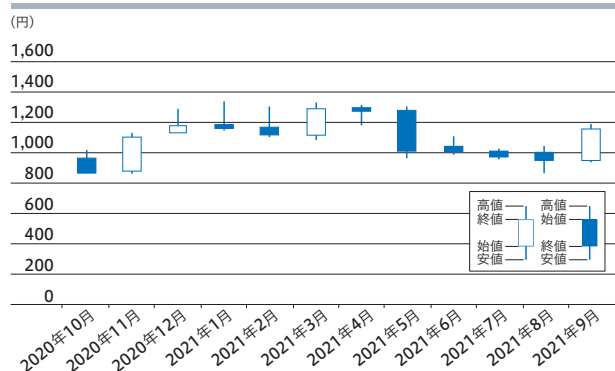
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777(通話料無料)	
同連絡先	
特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-782-031(通話料無料)	
同連絡先	
上場証券取引所	東京証券取引所市場第一部
単元株式数	100株
電子公告により行う 公告掲載URL http://www.pronexus.co.jp/koukoku/7105/7105.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)	
公告の方法	

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三井住友信託銀行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株価の推移



株主優待制度

株主の皆様の日頃からのご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力を高め、より多くの方々に長期にわたり当社株式を保有していただくため、株主優待制度を導入しています。

**対象となる株主様:** 毎年3月31日現在の株主名簿に記載または記録された、当社普通株式100株(1単元)以上を保有される株主様。

優待内容:

継続保有期間	配布内容
2年未満	QUOカード1,000円分
2年以上	QUOカード2,000円分

**その他:** 株主優待の詳細は、当社HPをご覧ください。

**贈呈時期:** 優待品は毎年、定時株主総会終了後の6月下旬にお送りする「定時株主総会決議ご通知」とともに発送いたします。

新中期経営計画関連資料

詳細資料



社長の久保による説明動画



企業サイト TOP



株主・投資家情報

三菱ロジスネクスト株式会社

〒617-8585 京都府長岡京市東神足2丁目1番1号  
TEL 075-951-7171  
FAX 075-955-3797

